



NCPタイムズ

Nihon CellonPack Times

発行所
日本セロンパック株式会社
大阪本社
〒540-0022
大阪市中央区糸屋町1-4-7
TEL.06-6941-8851
FAX.06-6943-8855

NCP
第10号
2013.7.16発行

トピックス **TOPIC**
SINCE 1933

日本セロンパック
創業80周年

おかげさまで80周年
新たな出発



創業80周年の記念すべき年を迎えることが出来ましたことに感謝いたします。得意先さまや仕入先・加工先さまの皆さまのお蔭と深く御礼申し上げます。早いもので、昭和40年に大阪セロファン株式会社（現日本セロンパック大阪本社）に入社し約半世紀が過ぎました。新入社員時代は、大阪工場で製造工程全般の基礎を徹底的に仕込まれました。当時は、グラビア印刷機、製袋機、スリッター機、裁断機ともフル稼働でした。この経験が、基盤となり今日があると感謝しています。昭和44年に白羽の矢が立ち東京本社に業務出向いたしました。東京工場の生産・工程・仕入管理を構築すると共に、昭和49年には埼玉工場第一期工事完成稼働、昭和52年には第二期工事完成稼働の一翼を担い、公私ともに色々な経験を重ねることができ、充実した日々を過ごせました。また新潟地区的営業活動の支援も行いました。この貴重な経験が、後の営業部門長時代に生かされたと思います。昭和59年に15年間の業務出向を解かれ、大阪本社に帰任いたしました。蓄積された製造全般の知識・スキルやノウハウのお蔭で、大阪本社の生産態勢再構築ができたと思います。ことに加工先・仕入先さまとの協力関係を築くことが出来ましたことに心より感謝いたします。平成6年には、海外協力工場の開拓活動を精力的に実施しました。ことにマレーシア主力協力工場の技術指導を行ったことが、昨日のことのように思い出されます。その後、今日まで得意先さまの海外現地法人の工場（北米・欧州・アセアン）へ期待される品質・価格で供給し続けてまいりました。昨年5月設立の勢容商貿（上海）有限公司、本年1月設立のNIHON CELLONPACK (THAILAND) CO.,LTDの主力製造拠点もマレーシアの協力工場です。当時に比べると目を見張るほど、生産態勢・品質保証態勢が向上していることを大変うれしく思います。

創業80周年を機に、100周年を展望し、更なる環境配慮とグローバル供給態勢の構築に微力ながら貢献したいと思います。引き続き、なお一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

（常務取締役・中村 正一）



日本セロンパック株式会社のあゆみ（昭和後半）

年 次	会社沿革	業界状況	国内外状況
昭和44年		ダイセル(株)PPフィルム、樹脂KOPフィルム、 (株)麗光VMフィルムの製造開始	アポロ11号、月面着陸
昭和45年		徳山曹達(株)OPP1号機の営業運転開始(株)興人NYフィルム生産開始	新日本製鐵、ユニチカ発足
昭和46年	日本セロンパック(株)札幌営業所開設	東洋紡績(株)PETフィルムの生産開始	日本万国博覧会、大阪で開催
昭和47年	大阪セロファン(株)社名変更 日本セロンパック(株)大阪本社・ 日本セロンパック(株)東京本社体制とする		沖縄返還協定調印(6月17日)
昭和48年		東洋メタライジング(株)VMフィルム販売開始	冬季オリンピック・札幌大会開催
昭和49年	日本セロンパック(株)埼玉工場第一期工事完成と同時に稼動		大阪・千日ビル火災
昭和52年	日本セロンパック(株)埼玉工場第二期工事完成と同時に稼動	ユニチカ(株)ビニロンフィルムの製造開始	オイルショック勃発
昭和56年	海外事業部門設立業務開始		佐藤栄作元首相、ノーベル平和賞受賞
昭和59年		ユニチカ(株)PETフィルム、二村化学工業(株)PETフィルム製造開始	初の気象衛星「ひまわり」打上げ
昭和61年	新潟工場完成と同時に稼動・新潟支店開設		スペースシャトル・コロンビアの打上げ
昭和62年	名古屋営業所を名古屋支店に昇格し静岡営業所開設	三菱樹脂(株)NYフィルム製造開始	日本、世界一の長寿国に
			ソ連のチェルノブイリ原発で大規模事故
			世界の人口50億人突破

（次号で平成をご紹介）



長野の元気な企業の人気商品紹介

弊社得意先「アスザックフーズ株式会社」様のフリーズドライ商品（「スープ生活」と「ザク切りデザート」シリーズ）をご紹介させていただきます。

▶「スープ生活」シリーズ

～お湯を注いで1分、フリーズドライのスープ～

このシリーズは、化学調味料無添加にこだわり、具だくさんのスープで、簡単・手軽に野菜を食べられるというコンセプトです。

人気商品の一つに、「信州しめじの和風スープ」があります。きのこの名産地・長野県でとれた生鮮しめじ・えのきを使用した和風スープで、シャキシャキとしたきのこの食感が特徴です。また「あめ色玉ねぎのスープ」は、シェフに教わった野菜と鶏をじっくり煮込んだ「ブイヨン」を使ってコクのある味わいが大変評価されている商品です。今年3月に発売になった「国産梅の和風スープ」は、現在売り上げが伸びている和風スープの新商品です。梅味のさっぱりとしたスープで、花かまぼこもかわいらしいと女性の方に支持を頂いているとのことです。

▶「ザク切りデザート」シリーズ

～フルーツのフリーズドライで、冷たい牛乳でつくるデザート～

このシリーズの「ザク切りいちご」は、2003年より発売を開始し、牛乳を注ぐだけで本格いちごミルクができることから主に首都圏の生協様で大人気となった商品です。ザク切りに切ったいちごの大粒果肉がたっぷり入っています。

(営業部・川端 健司)



アスザックフーズ株式会社様の沿革

1963年：信州総合食品設立、カレー粉用に乾燥りんごの生産開始
1970年：信州総合食品(株)を合併、旭食品工業に社名変更
乾燥食品(高原野菜)の製造販売を開始
1974年：FD1号機を導入、フリーズドライ食品の製造販売を開始
1994年：ベトナムホーチミンにASUZAC FOODS Co., Ltd.設立
1997年：社名をアスザックフーズ(株)に変更
2000年：自社ブランドスープの製造、販売を開始
2003年：中国山東省に済寧旭昌食品有限公司設立
2005年：中国浙江省に亜旭昌(紹興)食品有限公司とベトナムダラットにDALAT ASUZAC FOODS Co., Ltd設立

■ 上海現地法人設立から1年

上海に駐在して早一年、これまでの人生でこれ程迄目まぐるしい時間を経験したのは初めてです。昨年の6月1日に赴任し、最初の2ヶ月は現法の立上げ業務で考える暇も無い忙しさでした。そろそろ落着きましたが、9月に尖閣諸島に絡む反日デモに遭遇、相当のストレスを感じました。暫くは、通関が通らないとか、急に税務局の監査が入ったといった事例も聞かれましたが、今では元に戻ったようです。スーパーの棚の日本製品も元に戻り、象徴的だった日本車や日本料理店にも人気が戻りました。食品の安全性に大気汚染や政治問題など上海で仕事をする上で予断を許さない状況は続きますが、中国人のハングリ一精神には見習うべき所も多いと思います。学歴の高くなかった方出身者でさえ、すぐに簡単な日本語や英語を話せるようになるのは驚きます。恥ずかしがらずに覚えた単語をとにかく使ってみるという姿勢が、上達が早い理由だと思います。製造業においても最新の設備を導入したり、管理面を日本基準に合わせるような努力をしています。国民性や言葉の違いだけでなく、法律、商習慣など全てが異質の国ですし、また現法の仕事は範囲が広くて頭をフル回転させながらの毎日ですが、最近ではお蔭様で徐々にご注文も決まり始め、新規開拓の道も開けてきました。今は非常に貴重な経験をさせていただいていると思い、上海の事業を必ず成功させたいと奮闘中です。（勢容商貿（上海）有限公司・福長 憲幸）



小さな命を考える…

我が家では犬を飼っています。名前は小太郎。県の動物愛護センターから生後2ヶ月で引き取った雑種です。ペットを飼うとなると、「まずペットショップへ」と思われる方も多いと思いますが、動物愛護センターでは子犬の譲渡会が行われていて、家のない子犬たちを新しい家族のもとへ送り出しています。受け入れ家庭にはセンターの面談があり、終生飼育ができるか、犬をどのような環境で育てることができるかなどを話し合います。子犬のしつけ教室も開催され、さらには3か月後に職員の家庭訪問もあります。23年度の犬の殺処分数は43,606頭。飼育放棄やペットショップの“在庫処分”、ブリーダーによる繁殖犬処分等々、人間の身勝手な理由で棄てられた不幸な犬たちを引き受けるセンターでは苦悩も多いだろうと思います。一度は捨てられた命を、責任を持って引き受けてしまい。譲渡会ではそんなセンターの姿勢が伝わります。明日をも知れない小さな命を救うためにも、「まず動物愛護センターへ」と一人ひとりの意識が変わっていくことを願っています。（福岡営業所・汐待 祐助）